

廃食油回収システム概要

< 目的 >

- 当別町の一般家庭から廃食油を回収
- ふれあいバスで使用する BDF を町内で全て回収

1年間に一般家庭で使用される食油の量は約3リットルとされているため、当別町全世帯(約7,500世帯)で約22,500リットルが使用されていると概算できる。

< 現状と目標 (概算) >

	BDF 回収量				BDF 購入量	BDF 使用量
	一般家庭	町内事業者	町外事業者	計		
現状	400 リットル	16,000 リットル	4,300 リットル	20,700 リットル	4,000 リットル	24,000 リットル
目標	9,000 リットル	16,000 リットル	0 リットル	25,000 リットル	0 リットル	24,000 リットル

町内一般家庭からの回収量の増大を目指す！！

現状： $400 \text{ リットル} / 22,500 \text{ リットル} \times 100 = 1.7\%$
↓
 目標： $9,000 \text{ リットル} / 22,500 \text{ リットル} \times 100 = 40\%$

< 目標達成に向けた方法 >

- 方法1：住民の環境配慮意識の向上と廃食油回収協力に向けた広報の実施 (ソフト面)
- 方法2：廃食油回収協力者へのインセンティブ (お礼) と宣伝材料 (ソフト面)
- 方法3：回収場所や回収拠点の創出 (ハード面)

方法1：当別町全世帯配布のニューズレターによる広報の実施

発行月	掲載内容	仕様・備考
11月	-BDFの特集(BDFのメリット・製造方法とメカニズム・現状の回収量・BDFに関するQ&A) -廃食油の回収に関する協力依頼(廃食油回収場所・方法等のお知らせ) -帯広でのバスによる回収事例&小学校との連携 -下段社長のインタビュー記事(顔写真掲載)	A3

- ポスター作成

廃食油回収協力を求めるポスターを作成

- 駅や官公庁・学校のほか、応援券販売所や回収拠点の商店など.
- 仕様：A1サイズ フルカラー

その他、チラシやバス車体のマグネットなど、デザインを統一して集中的に宣伝を行う

方法2：廃食油回収協力者へのインセンティブ（お礼）と宣伝材料

- 住民回収に対するインセンティブ

11月～12月の2ヶ月間に廃食油回収に協力いただいた住民に対して、お礼を行なう。

- 廃食油 500ml に対して、バス回数券（200円相当）を1枚配布
- 実施期間：11月～12月の2ヶ月間（一般住民のみ）
- 周知方法：ニューズレター（11月1日配布）

- 学校回収に対するインセンティブ

学校に対しては、期間を設けず、図書券によるお礼を行なう。

- 学校：廃食油 50l に対して、図書券（500円相当）を1枚
- 実施期間：期間は定めない
- 周知方法：ポスターや学校配布のチラシ

- 回収容器の配布

- 油を回収するための容器を住民向けまたは学校向けに整備する。
- 全戸配布とはせず、要望のある町内会や学校に対して回収の宣伝も含みで配布する。
- バス車内にも配置する
- 前出のポスターとデザインを統一し、宣伝効果を高める。

方法3：回収場所や回収拠点の創出

- バス車内での回収

- バス車内での回収方法について
回収BOXを用意し、運転手に手渡し、容器ごと回収する。
バス停で油だけを手渡すことも可能とする。
ただし、フリー区間では油だけを手渡すことは厳禁とする。
- インセンティブの渡し方について
運転手が500mlごとにインセンティブ（回数券）を渡す。
- 回収容器について
ペットボトルを基本とし、専用容器が必要な人はすぐに持ち出せるように配置する。

- 学校での回収

- 学校での回収方法について
児童・生徒が学校に持ってきてもらい、容器ごと回収する。
回収頻度を調整し、下段モーターズが回収する。
- 学校向けのモビリティ・マネジメント（交通と環境の学習）と連携して回収を促進する。

- 町内店舗での回収

- 町内の店舗等の協力
商工会と連携し、応援券販売店、ガソリンスタンド、スーパー、病院等で回収を予定。
回収頻度を調整し、下段モーターズが回収する。
- 回収した店舗に対する謝礼は発生しない、環境に対する配慮からの協力をお願いする。